

# ミナミキイロアザミウマに有効な薬剤の探索

ミナミキイロアザミウマは1978年に日本で初めて侵入が確認された害虫です。キュウリ、ナスをはじめ多くの作物に被害を与えていますが、最近になってキュウリの黄化えそ病の原因となるウイルスを媒介するようになり、その上、殺虫剤を散布しても数が減らない事例が増え、キュウリの産地で大きな問題となっています。

そこで、県内各地のキュウリからミナミキイロアザミウマを採取し、各種殺虫剤の効果について調査しました。

## 1 調査方法

切り取ったキュウリ葉を各殺虫剤の希釈液に浸した後、寒天を入れたシャーレに載せます。ミナミキイロアザミウマ雌成虫をそのキュウリ葉にのせ、ふたをして2日間飼育します。飼育後に死亡した虫を数え、死亡率を計算しました。



ミナミキイロアザミウマ雌成虫



試験に使用した容器

## 2 調査結果

80%以上の高い死亡率が得られた薬剤は少なく、多くの殺虫剤で効果が落ちていることが確認できました。効果の高い薬剤についても、他の府県では効果が落ちた事例が報告されており、天敵農薬等の殺虫剤以外の防除方法を進めていく必要があります。

### 各殺虫剤に対するミナミキイロアザミウマの死亡率

( ) 内は採取した年月

薬剤名	補正死亡率 (%)							
	A市キュウリ	B市キュウリ		C市キュウリ		D町キュウリ	E町キュウリ	
	(H21.6)	(H22.11)		(H23.5)		(H23.5)	(H23.11)	
	2齢幼虫		多発ハウス	少発ハウス		ハウス①	ハウス②	
スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	75.7	42.0	25.7	30.7	91.4	35.1	54.8	66.6
ベストガード水溶剤	89.2	32.1	27.2	31.4	97.2	37.5	33.4	40.0
モスピラン水溶剤	26.9	6.9	8.6	13.8	25.4	25.5	13.1	19.0
アドマイヤー顆粒水和剤	87.2	9.2	45.9	58.3	57.2	20.0	29.0	28.0
ダントツ水溶剤	79.4	30.3	72.2	78.4	63.7	51.6	38.1	58.9
アクタラ顆粒水溶剤	53.1	4.8	3.0	8.6	14.0	16.7	30.1	10.9
アグロスリン乳剤	22.7	0.0	87.1	10.3	32.3	26.7	8.8	9.1
スミチオン乳剤	13.3	0.0	7.2	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0
スピノエース顆粒水和剤	87.6	100.0	100.0	96.7	100.0	100.0	38.0	35.4
コテツフロアブル	100.0	68.8	87.1	84.9	97.2	79.4	93.5	96.5
アフファム乳剤	96.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ハチハチ乳剤	95.7	97.6	97.1	97.1	97.3	93.5	67.7	86.7
プレオフロアブル	91.2	23.5	48.1	45.5	91.9	34.2	31.5	16.4

(農林総合研究センター 病害虫防除技術担当 TEL 0480-21-1114)